



豊田中だより

令和3年6月14日(月)

6月号

横浜市立豊田中学校

〒244-0815 横浜市戸塚区下倉田町950番地 ☎ 045-864-8640

「振り返り」を大切に

校長 上田 篤也

前期中間試験がありました。定期試験はこれまでの学習状況を確認するためにあります。試験前に知識を確認したり、授業で考えたことをもう一度振り返って理解を深めたり、様々な準備を進めてきたことと思います。定期テストのように、出題に関する範囲があって事前に準備時間を必要とするような試験は、今後、生徒のみなさんが数多く経験するものではないかと思います。準備することを通して、自分の力が伸びていることを実感することもできると思います。今回の試験でも、点数だけに一喜一憂するのではなく、これまでの自分の学習の様子、授業、提出物、試験に向けての準備など、自分の学習態度、学習方法などを振り返ることが大切です。さらに自分の力を伸ばすために、継続すること、改めることは何なのかなどを考えて見ましょう。

かつて、数学を教えていた時のことです。数学では、2年生で「図形の証明」という学習があります。それまでのAさんは、数学が苦手だったのですが、学習内容を理解しようと、板書以外に説明されたことを自分の言葉でメモするようになり、証明の流れを理解しようと教科書の例や例題に繰り返し取り組むようになりました。授業中の集中力も授業が進むたびにアップしていきました。テストではそれまでに取ったことのない点数を取ることができ、たいへんに喜んでいました。テスト後の振り返りには、「仲のよいBさんに勉強の仕方を教えてもらい、今までにないくらい勉強した。結果が出てうれしかった。また頑張りたい。これからは、復習だけではなく予習にも取り組んでみたい。」という思いが書かれていました。

本年度より、国が示す学習指導要領が改訂され、生徒のみなさんの学習状況を評価する観点が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つに変更になっています。この中で、「主体的に学習に取り組む態度」については、「知識及び技能」を獲得したり、「思考力・判断力・表現力等」を身に付けたりしたことに向けた粘り強い取組や、そうした中で自らの学習を調整しようとする取組の2つの取組を総合して評価されます。例えば、Aさんのように板書以外に説明されたことを自分の言葉でメモしたりすることや教科書の例や例題をしっかりと理解しようと繰り返し取り組んだりすることが『粘り強い取組』に、仲のよいBさんに教えてもらって学習方法を自分なりに改善したりしたことや、今後予習にも取り組んでいきたいという意欲や行動が『自らの学習を調整しようとする取組』につながっていきます。何よりも、苦手であった数学を分かりたいと長い時間をかけて取り組めたことが授業中の集中力に表れており、『主体的』な学習態度につながったのであろうと思います。こうした学習態度を身に付けていくことが、他の2つの観点に関する力の向上にもつながっていきます。繰り返しになりますが、これまでの学習態度や学習方法を見直してみましょう。

体育祭についてのお知らせ

6月24日(木)に豊田中央公園を会場に体育祭を実施する予定です。少しでもよい形で開催することができればと、本格的な準備・練習が始まる直前まで検討を進めてきました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止にともない「まん延防止等重点措置」が延長されたこともあり、十分な予防策を取ることが難しいと判断し、次の様に体育祭を開催することとしました。

保護者やご家族のみなさまのご観覧はなしにさせていただくこと

楽しみにされていたことと思いますが、3密状況を回避することが難しいことや生徒座席をできる限り広く取るために判断をさせていただきました。

2つの種目「大縄跳び」と「綱引き」を中止にすること

生徒のみなさんにとっては、学級で協力し団結できる種目として人気があるのですが、感染症や熱中症を予防する観点から中止することとしました。

感染症や熱中症の予防に努めること

事前の健康観察の徹底、観戦中のマスクの着用、共用物を用いる時の軍手の着用、各学級ごとにテントの設置、水分補給の機会を多く取ること等を進めていきます。

その他、詳細については別紙「体育祭のお知らせ」を配付しましたのでご参照ください。

「知ること」の大切さ

6月1日(火)に、ハンセン病のことについて学習しました。7月6日(火)に本校の創立50周年を記念して講演会を行います。創立50周年記念事業は、本来であれば昨年度中に行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で本年度に先送りしていました。本年度に入ってから、感染症の拡大状況に大きな不安があるために、可能な範囲で記念事業を進めていきたいと考えています。

7月6日(火)の記念講演は、作家のドリアン助川先生にお願いしています。ドリアン助川先生は2013年に小説「あん」を書かれています。「あん」の主人公は徳井さんという女性で、かつてハンセン病を患っていましたが今は快復しています。2015年には、樹木希林さんが徳井さんを演じて映画「あん」が発表されています。この映画「あん」については、講演会の前に生徒のみなさんに観ていただきます。

ハンセン病のことについて理解しておくことが、「あん」やドリアン助川先生のお話をより深く理解することにつながると考えられます。

6月1日の学習を進めるにあたっては、ハンセン病に感染したみなさんが強制的に隔離されていた多磨全生園(たまぜんしょうえん)にある国立ハンセン病資料館より学習資料を全校生徒分提供していただきました。たいへんに分かりやすくつくられていますので、是非今後の学習にも役立ててください。ハンセン病は「らい菌」に感染することで発症しますが、「プロミン」という特効薬によって1943年には治る病気になっていました。それにも関わらず、感染力が強く治らない病気として、感染したみなさんは強制的に療養所に隔離されていました。実際には感染力も弱く、適切な治療で治るにもかかわらず、また快復しても療養所から出ることが法律によってできませんでした。そうした法律が廃止されたのは1996年(平成8年)のことです。法律は廃止されましたが、隔離されたみなさんの人権侵害、名誉回復の問題、さらに感染した方のご家族のみなさんが長年にわたって人知れず苦しまれてきた問題など、未だに全てが解決されたわけではありません。今回の学習でどのようなことを思ったのか、感じたのか、生徒のみなさんが考えたことを紹介します。

【1年生】

- 1 今も新型コロナウイルスが流行しているけど、このハンセン病のようなことは絶対にしてほしくありません。また、このようなことは繰り返されてはいけないので、これからも伝えていくべきだと思います。
 - 2 「 って らしいよ」「 って なん だって~！」と言われたら、「本当に?」「誰がそんなこと言ったの?」と問いかけることが必要だと思います。国は50年以上、ハンセン病の人たちを苦しめてきました。本当に許せないことだと思います。私たちはそのことを歴史から知る必要があります。どんな思いをしていたのか、どんなに辛かったか、私たちには想像できません。だからこそ、公正、公平な態度で接することが大切なんだと思いました。
 - 3 今もハンセン病を理由に、家に帰れなかったりする人がいることを、もっと多くの人に知ってほしいと思いました。そして、いつか家族などに会えるようになってほしいと思いました。今日、初めてハンセン病のことを知ったけれど、今のコロナもそのような差別的なことに絶対にならないでほしいです。
 - 4 「ハンセン病 感染する 障害が出る 差別される」という歴史が昔にはあり、現代の人たちにはあまり知られていない。だから、コロナウイルスが出ている今でも差別や年の差で判断する、せきをしているから「あの人、コロナかもしれない、近付かないでおこう」などのことをしている人がたくさんいると思う。感染症以外にも、人種差別や障害者差別などがあると思う。まとめると、世の中にはたくさん「差別」がある。その世の中を生きていくために、コロナの歴史やハンセン病の歴史について知る。SDGsにもあるように、生きていくために学校の教科の勉強以外にも、社会的な課題や差別などを考えたり、実際に体験している人に聞いてみたりする。そうしたことを見つめ直したり学んだりすべきだと思います。
 - 5 病気のことを知るだけでなく、元患者の人や今も施設に住んでいる人の当時の苦しさや、今どんな気持ちなのかを知って、次の世代の人たちに伝えていくことが必要だと思います。
 - 6 今は、学校に行ったりとか、ご飯を食べたりとか、自分たちにとってあたりまえな生活ができるけど、ハンセン病の歴史を見て、家族が巻き込まれないようにと気遣う優しさだとか、そういうのも学ぶべきだと思うし、あたりまえがあたりまえじゃなくなったらどうしようとかも、考えるべきだと思う。近くに、そういう障害をもった人とか、元患者さんとかがいても、「かわいそうに」だとか思わずに、それも個性だと思って受け入れるように接していけたらいいなと思って。後遺症で、手足とか目の感覚がなくなっているけど、本が読みたくて、舌で頑張っている人は本当にすごいと思ったし尊敬します。ずっと言われていることだけど、まずは偏見をもってしまわないで、相手の立場に立って考えていきたいと改めて思った。番組を視聴して思い直すことが多かった。今は、昔とは違うから差別とかをなくして
- いけるように、まずは自分たちが動いてどんどん周りに広げていけたらいいんじゃないかと思いました。色々な方法で、ハンセン病を知らない人にも伝えていきたいです。伝えてほしくない人もいると思うから、伝えることも難しいと思いました。
 - 7 病気にかかってしまったからと言って、人を差別するなんて悲しいと思い、こんなことはもう二度と起こってほしくないと思いました。自分たちはいいなどではなく、このようなことをされてしまっている人のこともよく考えて、どのようにすればいいかなどを周りの人、みんなと話し合い、自分だけではなく周りの人のことも考えていきたいと思いました。
 - 8 もう二度とこのようなことがあってはいけな

いなかったら、今のコロナの患者の人もハンセン病の時のような扱いを受けていたのではないかと思います。これからもハンセン病という歴史を忘れず考えていきたいです。

【2年生】

- 1 今私は普通に学校に行ったり楽しく笑ったりして過ごしているけど、ハンセン病になってしまった人は、学校にも行けず、たくさんのことを奪われた。そういう人たちがいるということを私たちはこれからも忘れてはいけないと思いました。これからもコロナのように、いつ何のウイルスが出てくるか分からないので、もちろんうつるのは怖いけど病気になった人をいじめたり差別したりするのは違うと思うので、そのようなことがこれからはもないことを願っています。そしてこれからは新たなウイルスができないことを願っています。
- 2 隔離をして自由を奪ってしまう、この制度は色々な人の心を苦しめたものだと思う。今までハンセン病自体知らなかったの、今回のことを通して、これからはこの出来事を忘れずに過ごしていきたいです。
- 3 どんな病にかかっても、自分たちと同じ命であり、差別をしたり、苦しめたりするのは全く正しいことではない。そのような歴史があったことを決して忘れず、後世に残していく努力をしていかなければならない。
- 4 病気のことをよく知らないのに偏見をもったり差別をしたりするのはいけないことだと思いました。無知は本当に恐ろしいことで一人ひとりが病気に対して理解を深めないといけないと思いました。
- 5 こういう病気があったことや無意味に差別されていたことを知って、もう2度と繰り返さないように日々の言動を気にしながら生きていかなければいけない。病気がつたりたくてなっているわけじゃないから、それを理由に差別するのはよくないことだと思う。
- 6 同じ歴史を繰り返してはいけないと思う。でも、実際、今でも差別を受けている人はたくさんいる。苦しみもがきながら、亡くなってしまった多くの方たちの思いを忘れずに今の時代につなげていきたい。
- 7 病気によって、どんなことを受けているのか。日本だけではないのか。と、様々なことが広がっていくから、ハンセン病のようなことをもっと知りたい。
- 8 こういうことがあったんだということを後世にも伝えていき、一緒に考え、二度と繰り返してはいけない問題だと思う。
- 9 差別されてる人に自分が手を貸してあげることが大切。どんなに差別をされても、生きるために一生懸命生きていてすごいと思ったし、人と人が分かち合わない国は成り立っていかないから、人々が協力することは大切だなと思った。

10 ハンセン病にかかってしまったとしても、差別を受けるのは間違っていることを改めて感じました。また、ハンセン病のことを深く知り、その人たちと会ったときに、どのような言葉をかけるのか、自分がその立場になったらどう思うのかを考えて見るのが大切だと思う。

11 私はハンセン病の病気のことを聞いたこともないし、知らなかったけど、日本の過去ではこんなに辛い病気があったのかと驚いた。これからの私たちは、これまでの日本の辛い思いをした人の気持ちを受けとって、不治の病がもしてきたとしても差別をしたり、治っても外に出て行けないような辛い思いになる人がいないような日本にしていけたらよいと思う。現在、日本でも差別があると思うけど、日本の過去ではもっともっとひどい扱いをされているので、人は人を差別してはいけないということを学んだ方がよい。

12 今はコロナウイルスという感染症が流行っているが、感染者の人、元感染者の人、医療従事者の人たちを差別することはいけないことである。らい病の時のように、ひどい扱いを受けてはいないけど、偏見や差別はある。感染した人は自分の意思でなったわけではないから、そんな人たちをどう考えるか。病気だけでも辛い思いをしているのに、偏見や差別などでも辛い思いをさせるのはおかしい。

13 今、私が知らない病気、今ではあり得ないほどの扱いをされていた人がいると知って驚いた。ハンセン病になった平沢さんのポジティブな思いが響いた。

14 ハンセン病についてよく知ること、偏見をもたないこと、差別をしない気持ちをもつことが一番大切だと思う。資料館などに行けなくても、パンフレットや資料を読んで、患者さんにも関わることがあったら出来ることを色々していきたいと思っています。

15 差別は何があっても絶対にしてはいけない。自分がされて嫌だなと思うことは人にはしない。今もハンセン病で苦しんでいる人がいると思うと、私たちの生活はととても幸せだと思う。今はコロナが流行っているけど、昔のハンセン病と一緒に、コロナの人を差別してはいけないことが伝わってきた。人と少し違うだけで、考えが少し違うだけで世界中が差別していることに驚いた。

【3年生】

- 1 今もあの施設から出られない人、自由を手に入れられない人がこの国にもいて、それを知らなかった自分はなんて無知だったんだろうと感じた。そのことを受け止め、生きていこうと思った。
- 2 SNSに左右される時代、でもその理由はその人は無知だから。知らないものを恐れるのは恥だと思いました。色々な人が人の可能性をつぶし合う、そんな世の中だと思いました。限られた条件の中で、自分の可能性を探し、見付け、伸ばしていく。そんな生き方ができればいいなと思いました。

- 3 人間、どんな病にかかったって、その人であることに変わりはないのだから、今のご時世コロナにかかった人への差別もあつたりするけど、そういうのは絶対にあつてはならないと思いました。「無知が偏見を生む」「生きることに価値がある」この二つのことを忘れず生活しようと思いました。
- 4 昔の人たちを私たちは責めているが、今もそれがないわけではないから、物事を深く知って、自分にとってよい解釈だけをしないようにするべきだと思った。これから先、そんな差別が起きないようにしていけるようにしたい。
- 5 ハンセン病により人生をめちゃくちゃにされた人たちがいることを先ず知ることが大切だと思った。また、無知というのはよくないのを知った。今もコロナが流行り、コロナにかかった人、家族にコロナにかかった人がいるだけで、いじめにあつたりしてしまうので、しっかりとその病気について知ることが大切だと思った。
- 6 平沢さんの「物事はけんかしてはいけない」「怨念を怨念で返したら明日はない」という言葉が心に残りました。冷静になって考え、明日が来ることだけを考えて過ごしていた方だと思った。ハンセン病は身体的なことだけではなく、精神的な面でも辛かったのだと思った。また、どんな状況でも差別はよくないと改めて感じた。今自分が楽しく生きているのは恵まれていることだと思った。
- 7 ハンセン病の歴史から、私は社会の授業では習わない歴史でこんなにもひどいものがあるんだなと思いました。その中で、私たちはその人たちが受けてきた差別や気持ちなどを考え、学ぶべきだなと思いました。
- 8 差別や人の傷付くことはしてはいけないと改めて知ることができ、私たちがハンセン病の辛さや差別を生んだり、相手を傷付けることはいけない。少しでも気持ちを知ることが大切で、少しでも知ったことを広めることができたならよりよいと思いました。
- 9 ハンセン病という言葉しか知らなくて、こんなにたいへんな病気だとは知りませんでした。また、今はコロナという病気が流行っていて、それも差別を受けている人がいるし、みんなが避けていくようなことが今でもある。その病気にかかってしまうのは、誰のせいでもないのに、差別で自分の生きている価値が分からなくなってしまうようにしたいです。
- 10 自分たちと違うから、こわいから、と言って差別されると人は悲しくなる。けれど、誰もが生きようとしていることは同じなのだと思った。生きようとする気持ちを気持ちだけで終わらせずに、行動することは難しいが、全員が知ることで何かできるかもしれないので「知る」ことは大切だと思った。
- 11 あまりにもひどくてむごい過去だから、私たちは見たくないと少し思ってしまうようになるけどそれが一番いけない。おかしてしまったことに向

き合い、二度と同じような間違いしないようにするべきである。

- 12 差別ってよくないと改めて思った。一生を無駄にされてしまうのはおかしいと思った。でも、それは今だから言えることで、当時このハンセン病を防がなければならなくて、自分たちが普通であれば差別してしまうんじゃないかと思った。正解が分からない。
- 13 ハンセン病についてよく知り、知った上で自分はどうするべきなのか、自分より下の世代にどのように伝えていくかを考えるべきだと思う。元ハンセン病患者の方々の辛さや苦しさについて、たくさんの人が学ぶことで、次にもしそのような病気がまん延してもハンセン病がまん延したときよりは差別が減ると思う。今新型コロナウイルスが流行していて、自分も差別されたり、差別してしまうことがあるかもしれないと身近な問題に感じた。
- 14 物事をよく知らないまま批判したり、受け入れたりするのはなく、よく知った上で、自分はどうかを考えることが重要だと思った。人は誰でも平等で、差別や偏見をもつことはよくないことだと思った。
- 15 人間はたくさんのことに自分の考えを押し付けたくさんの誤解を生んでいる。聞いただけ、見ただけで偏見をもつ人がたくさんいる。何も知らないのに、すぐに偏見へ足を踏み入れるのではなく、病気に偏見をもつなら、そのことについて詳しく調べてから意見を言うべきだと感じた。偏見されている人の場面を考えて、自分の意見を言うべきだと感じた。私たちは、この世の中で色々な苦しみを抱えている人たちのことを全く知らないと思う。だから、自分で知る時間を設けたらよいと思った。
- 16 自分たちの幸福ばかりを追求するのではなく、相手の立場に自分を置きかえ、社会的差別がなくなるようにしていかなければならないと思いました。また、このような歴史から私たちは勝手な偏見をもち、人を迫害し続けるのはよくないことを学ぶべきだと思います。
- 17 この歴史が本当にあったことだと自覚し、目をそむけず、もう二度とこのような歴史を生み出さないよう、何も知らない人に伝え、少しでも暗黒の歴史への足止めに貢献すべきだと思います。
- 18 差別をしないということはあたり前のことですが、「周りの人がやっているから大丈夫」などという考えでやってしまう人は多いと思う。今回のビデオを観て、もっと周りのことに興味をもち、問題から目をそらしてはいけないかと改めて感じた。
- 19 人間は生きていることに価値があるのだから、自分も精一杯生き、他の人の生きることを邪魔したりすることをしないようにしたい。また、何も知らず差別したり、恐れたりせずに自分から進んで正しい情報を身に付けるようにしたい。

20 今回、ハンセン病について学習してもっと知りたいと思いました。特效薬ができて、ハンセン病が治る病気になっても隔離政策が改められなかったことについてもっと詳しく知りたいです。私がもしハンセン病にかかったら、一番辛いと思うことは、家族、友達に会えないことなので、何故治っても出られなかったのか、50年の間に何があったのか、調べてみようと思いました。無知が差別を生むということについては、国語の勉強でもあったとおり、何も知らないのに、偏見だけで考えたりせずに、知ることが大切だと思いました。

《感想をまとめるにあたって》

生徒のみなさんの実際の表記をできる限り大切にしましたが、使用する漢字をそろえたり、文章の意味が伝わりやすいように修正した部分があることをご確認ください。

全校生徒のみなさんが書かれたものを読ませていただきました。今回の学習を通して、みなさんが様々な感じたことをお互いに共有してもらえたらと願っています。

6月22日(火)は「らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日」になります。ニュース等で報道される可能性があります。

地域の方からの励ましのお手紙

6月9日(水)に豊田中央公園近くにお住まいの方が学校に来校され、「豊田中学校御一同様」と封筒の表書きに書かれたお手紙をお預かりしました。

この前日に、練習等を含め体育祭実施にあたり豊田中央公園周辺のみなさまにご挨拶の手紙を副校長先生がポスティングしていました。

今朝、お便り拝見しました。私は公園のすぐ近くで生活する老夫婦です。昭和50年に新しくすまいを築き、子ども二人小中学校をお世話になり、今では子どもの親として生活しております。

ひとえに、学校の教育、世の中の環境に恵まれたと感謝しております。年々、教育(先生方)の配慮等、難しさが増していると感じ、御苦勞を痛感しております。

大人たちが我が子を育てた日々のことをすっかり忘れ、当自治会でも夏休みのラジオ体操すら思うにまかせません。

昨今のコロナ禍で我々も日々散歩をする習慣をもち、時々下校時の中学生に会います。大きな声で「コンニチワ」と言ってくれる子どもを時々見かけます。私も「今日はありがとう。あいさつは気持ちよいね」と返します。大きな声で見知らぬ人に声をかけるのには勇気のいる年頃です。年寄りはいっぺんに心と体に元氣をもらいます。

コロナを悪いことばかりではないなとちょっと思ったりします。赤ん坊の泣き声、少年たちの元氣な姿は何よりの薬と将来の宝物です。我が孫も大学受験、高校受験と今年経験、何とか無事通過したのも束の間、大学生は通学できておりません。いっときも早く、コロナの収束を願い、子どもたちがあるべき姿に戻れるよう、自分なりの努力をしたいと思っております。道路を渡る時、運動会の日、先生方の張り上げる声に「御苦勞様」と感謝している住民も直近にあることをどうぞ心にお留め置きくださいませ。

かしこ

2021.6.9

時として、地域のみなさまより、下校時等に交通ルールや歩行マナーを守ることができておらず、ご心配であるご指摘をいただき、生徒のみなさんに注意喚起を行う場合があります。生徒のみなさんが地域で安全に過ごすためには、こうしたご指摘は大切であり、たいへんありがたく思っています。今回は、職員も含め全校生徒のみなさんに向けて、日頃の様子をご覧いただいておりますお褒めと励ましのお言葉をいただくことができました。た

いへんに感激の思いで読ませていただき、生徒のみなさんにも是非お伝えしたいと思いました。こうした思いをいただけたことをこれからも大切にしていきたいです。

栄光を称えます

本年度に入ってから、感染症対策を行いながら、部活動の大会が行われています。素晴らしい成績を得た部の紹介をします。

男子バスケットボール部

横浜市中学校バスケットボール選手権大会 優勝

サッカー部

横浜市大会ブロック予選会 第1位(市ベスト8)

この成績により、市長旗争奪サッカー大会本戦出場

男子テニス部

戸塚区大会

優勝 ・ 組

3位 ・ 組

3位 ・ 組

《スクールカウンセラー来校日》

6月 9(水) 16(水) 23(水) 30(水)

7月 7(水) 14(水) 21(水)

6月・7月の予定

《6月》最終下校時刻17:00R18:00

- 1(火)前期中間試験、人権学習
- 2(水)開港記念日
- 3(木)2年歯科検診
- 7(月)教育実習開始(~25(金))
- 9(水)専門委員会14:40
- 10(木)1年耳鼻科検診
- 11(金)中央委員会15:10
- 15(火)体育祭学年練習(2年 1年 3年)
- 16(水)一斉下校14:40
- 17(木)全学年眼科検診、体育祭係打合せ15:45
- 18(金)体育祭全体練習(午後) 昼食11:40~
- 23(水)体育祭前日準備
- 24(木)第51回体育祭
(予備日25(金)28(月)29(火))
体育祭実施の翌日は9:00登校
- 29(火)部活動卒業アルバム写真撮影 14:45

《7月》最終下校時刻17:00R18:00

- 1(木)火災避難訓練()
部活動卒業アルバム写真撮影 15:30
- 2(金)50周年記念学年写真撮影(予備日8日)
- 5(月)専門委員会15:05
- 6(火)50周年記念講演会(5・6校時)
- 7(水)中央委員会14:40
- 9(金)全校学校保健委員会(6校時)
- 12(月)~16日(金)個人面談
- 15(木)2年学年集会(4校時)
- 16(金)1年学年集会(4校時)
- 19(月)3年学年集会(3校時)
- 20(火)全校朝会 一斉下校12:35 部活動再登校15:30
- 21(水)夏季休業(8月26日(木)まで)
- 22(木)海の日
- 23(金)スポーツの日